

教育研究業績書

2016年10月01日

所属：幼児教育学科

資格：講師

氏名：小尾 麻希子

研究分野	研究内容のキーワード
幼児教育学, 保育学	幼児教育カリキュラム, 幼稚園教育実践史, 保育実践研究
学位	最終学歴
修士 (学術)	神戸大学大学院総合人間科学研究科人間発達科学専攻博士前期課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. グループワークによるポートフォリオ作成・発表を重視した授業「保育内容総論」	2015年04月～現在	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育所における実践事例や映像を介し、子どもの発達に即した保育内容及び実践化への理解を深める取り組みをしている。 ・各グループで選択したテーマに基づいて、その保育内容と展開方法を構想する授業スタイルを重視している。グループワークによる「調べる・話し合う・ポートフォリオとしてまとめる・発表する」といった一連の過程を重視し、学生の保育構想力向上に向けた取り組みを行っている。
2. 保育観察・保育実践に基づいた実践演習・実践研究「教育演習・卒業研究」	2015年04月～現在	「教育演習」及び「卒業研究」では、市立幼稚園・私立幼稚園と連携を図りつつ、保育観察及び保育実践に基づいた演習・実践研究を展開。観察記録、記録に基づく討議、資料作成、観察した実践につながる保育構想、保育実践など、実践に基づいた学びを重視している。
3. 附属幼稚園・市立幼稚園との連携に基づいた実践演習「保育・教職実践演習」	2014年09月～現在	短期大学部「保育・教職実践演習」において、附属幼稚園・市立幼稚園との連携に基づいた保育実践演習を実施。本授業において学んだ幼児理解・保育者の役割・保育内容と方法・指導計画作成・保育展開等に関する事項を、幼稚園にて実践し、理論・演習・実践の統合を目指している。
2 作成した教科書、教材		
1. コンパクト版保育者養成シリーズ「保育内容総論」	2016年09月	幼稚園・保育所における保育内容の歴史、保育内容を考える視点とその評価、乳幼児の発達に応じた保育内容など、保育内容全般について解説した教科書である。第13章「5歳児の保育内容」を執筆。協同的な遊びと学びの側面に焦点を当て、5歳児の保育内容について論述した。(谷田貝公昭・石橋哲成監修・一藝社)
2. コンパクト版保育者養成シリーズ「教育・保育課程論」	2016年09月	幼稚園・保育所における教育課程・保育課程・指導計画について述べた教科書である。第5章「幼稚園における教育課程と指導計画」を執筆。「幼稚園教育要領」と教育課程の関係性、指導計画の意義、指導計画の実際と作成上の留意点の観点から、幼稚園における教育課程と指導計画について論述した。(谷田貝公昭・石橋哲成監修・一藝社)
3. コンパクト版保育者養成シリーズ「保育者論」	2016年03月	保育者の制度的な位置づけ、倫理感、役割と専門性、協働と専門職的成長について述べた教科書である。第10章「現代における望ましい保育者像」を執筆。筆者によるアンケート調査結果より、各経験年数・立場から捉えた「望ましい保育者像」と、その相違によって、望ましいと考える保育者像がどのように変容していくのかを提示し、保育者の専門的成長プロセスについて論述した。(谷田貝公昭・石橋哲成監修・一藝社)
4. 平成18年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」	2007年03月	平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著している。3歳児の年間指導計画、月別指導計画(4月～3月)、週指導計画例各1編を執筆した。(兵庫教育大学附属幼稚園)
5. 兵庫教育大学文化教育資料館「3歳児保育指導案」	2007年03月	平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園において作成した3歳児学級指導案2編を兵庫教育大学教育文化資料館にて所蔵・公開している。
6. 平成17年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」	2006年03月	平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児か5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著している。4歳児の年間指導計画、月別指導計画(4月～3月)、週指導計画例1編を執筆した。(兵庫教育大学附属幼稚園)
7. 平成16年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」	2005年03月	平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著している。5歳児の年間指導計画、月別指導計画(4月～3月)、週指導計画例1編を執筆した。(兵庫教育大学附属幼稚園)
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 地域連携活動「図書館との連携によるワークショップ」	2015年04月～現在	教育演習及び卒業研究に所属する学生によるワークショップを地域の図書館において年に2回開催している。パネルシアターやペーパーサートなどの手作り教材を用いたお話し会及び上演した物語につながる造形遊びなど、学生の構想に基づいたワークショップである。子どもの遊び・

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
2. 文部科学省研究開発「親育てプログラムとその評価システムの開発による幼稚園の教育課程及び地域の子育てに関する研究開発」	2006年4月～2007年3月	学びの場づくり及び学生の保育構想力・実践力の向上を目的としている。 文部科学省より研究開発の指定を受け、幼稚園における「親育てプログラムとその評価システム」の開発と幼稚園教育課程への位置づけを行った。また、同プログラムを地域子育て支援の一環とする試みを行った。同プログラムは、保護者の保育参加、子育て講演会、子育て相談等から構成され、評価システムは、保護者の子育て意識の変容を捉える視点から開発し、文部科学省へ報告書を提出した。（兵庫教育大学附属幼稚園）
3. 大学・附属幼稚園教員による共同実践・研究「幼稚園における英語遊び」	2005年4月～2007年3月	兵庫教育大学教員との共同実践・研究により、幼稚園における英語遊びプログラムを実践するとともに、幼稚園教育課程に英語遊びプログラムを位置づけた。
4. 文部科学省海外派遣「国際的な視野・識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修（フィンランド・スウェーデン）」	2005年11月	文部科学省海外派遣研修において、フィンランド・スウェーデンの就学前教育や初・中・高等教育・特別支援教育の実情を視察し、報告書を文部科学省に提出した。報告書においては、特に、視察国の就学前教育の実情に基づいて、日本の就学前教育の展望について言及した。
5. 大学・附属幼稚園・地域幼稚園教員・保育士による共同実践研究（保育内容・方法）	2004年4月～2007年3月	「幼年教育研究会」（年間3回開催）において、公開保育及び研究発表を行う。また、保育実践の質的向上を目指し、兵庫教育大学教員や同附属幼稚園教員、地域の幼稚園教員、保育士とともに研究テーマに基づいた研究協議や実践報告等を行った。
6. 大学・附属幼稚園・小学校教員による共同実践・研究「幼小連携教育」	2004年4月～2005年3月	兵庫教育大学・同附属幼稚園・同附属小学校教員による共同実践・研究により、幼小連携教育を推進した。研究成果は、幼小教員による合同保育・授業と合同研究発表会において公開し、幼小交流実践における子どもの学びと学びの過程を示した。また、兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要及び同附属小学校研究紀要等において発表した。
7. 文部科学省「幼稚園教育課程協議会」中央協議会研究発表	2004年11月	平成16年度文部科学省「幼稚園教育課程協議会」中央協議会において、兵庫県代表として研究発表を行った。協議会主題C「感じたこと、考えたことを音や動きで表現したり、自由にかいたりつくったりする物的・空間的環境の構成」及びその幼稚園教育課程編成について発表した。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 幼稚園教諭専修免許状 2. 小学校教諭専修免許状 3. 保育士資格		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. コンパクト版保育者養成シリーズ「保育内容総論」	共	2016年09月	一藝社	幼稚園・保育所における保育内容の歴史、保育内容を考える視点とその評価、乳幼児の発達に応じた保育内容など、保育内容全般について解説した文献である。第13章「5歳児の保育内容」を執筆。協同的な遊びと学びの側面に焦点を当て、5歳児の保育内容について論述した。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成 （第13章「5歳児の保育内容」執筆）
2. コンパクト版保育者養成シリーズ「教育・保育課程論」	共	2016年09月	一藝社	幼稚園・保育所における教育課程・保育課程・指導計画について述べた文献である。第5章「幼稚園における教育課程と指導計画」を執筆。「幼稚園教育要領」と教育課程の関係性、指導計画の意義、指導計画の実際と作成上の留意点の観点から、幼稚園における教育課程と指導計画について論述した。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成 （第5章「幼稚園における教育課程と指導計画」執筆）

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
3. コンパクト版保育者養成シリーズ「保育者論」	共	2016年03月	一藝社	保育者の制度的な位置づけ、倫理感、役割と専門性、協働と専門職的成長について述べた文献である。第10章「現代における望ましい保育者像」を執筆。第1節では、「幼稚園教育要領」において示されている幼稚園教諭の役割と専門性を整理し、論述した。第2節では、筆者によるアンケート調査結果より、各経験年数・立場から捉えた「望ましい保育者像」と、その相違によって、望ましいと考える保育者像がどのように変容していくのかを論述した。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成 (全155頁 第10章「現代における望ましい保育者像」 pp. 94-102執筆)
4. 教育学科への招待	共	2015年04月	武庫川女子大学出版部	日本において最初に設立された東京女子師範学校附属幼稚園の創立から昭和初期にかけての保育と、主事を務めた倉橋惣三の保育論を取り上げ、幼児教育の原点について述べた。 監修：武庫川女子大学文学部教育学科 (pp. 44-47「幼児教育の原点」を執筆)
5. MINERVA保育実践講座第16巻「子育て支援の理論と実践」	共	2013年01月	ミネルヴァ書房	子育て支援の理念及び目的、歴史文化的諸相、幼稚園、保育所、子育て支援センター、地域における子育て支援の取り組み、その実践例について著している。第8章から10章にかけては、子育て支援の効果及び課題、子育て支援の展望について研究的な側面から紹介している。第3章第1節幼稚園における「子育て支援」の概要を執筆し、幼稚園における子育て支援の目的及び方法について、実践例を提示しながら述べた。 共著者：名須川知子、佐藤哲也、岸本美保子、谷石宏子、高橋一枝、上月康代、小尾麻希子、山田有紀子、横川和章、田中亨胤他 (全176頁 第3章第1節 幼稚園における「子育て支援」の概要pp. 29-33執筆)
2 学位論文				
1. 「学びあう共同体」における幼児のアイデンティティ形成過程と教師のかかわり－関係論的分析から見えてくるもの－	単	2002年3月	神戸大学大学院総合人間科学研究科修士論文	幼稚園5歳児クラスにおける幼児の長期にわたる集団への参加過程に着目し、対象児のアイデンティティ形成過程及びその過程にかかわる教師の学びと変容について分析した。幼稚園という「共同体」における保育実践の中で、対象児にどのような集団への参加の軌道が創出されていくのか、その軌道の構成に共同体の構成員がどのようにかかわっていくのかを、関係論的視点から明らかにした。
3 学術論文				
1. 幼児教育における「協同的な学び」を推進する教師の援助－幼稚園5歳児クラスの事例にみる－（査読付き論文）	共	2012年3月	同志社女子大学総合文化研究所紀要第29巻 同志社女子大学総合文化研究所225-238頁	幼稚園5歳児クラスの遊びの中で捉えられた幼児の学びをフレールとカツの理論を援用した「学びのマトリックス」によって示し、「協同的な学び」がどのような体験であり、どのような幼児の学びによって構成されているかについて述べた。また、教師の行った環境設定や援助について示し、幼児の自発性を尊重した保育の前提には、周到に準備された教師の働き掛けがあることを分析した。協同な学びを育むには、幼児自身で探求し、創意工夫しながら遊びの目的を実現していくこと、忍耐強く試すこと、課題を認識し、乗り越えようとする等、カツの示す学びの範疇の一つ「性向」を育てていくプロセスが重要であると考察した。 共著者：埋橋玲子、小尾麻希子
2. 幼小連携教育の展望－交流実践・教師の連携・カリキュラムの接続－	単	2008年3月	兵庫教育大学附属幼稚園 兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要第17集 I	兵庫教育大学附属幼稚園と同附属小学校間で研究、実践を行った幼小連携教育に基づき、幼小連携教育の展望及び幼小連携教育を視野に入れた附属幼稚園のカリキュラムの再編成について考察した。幼小連携教育の展望を、教師の連携、交流実践、カリキュラムの接続の3つの点から述べた。
3. 「好きな遊び」の環境構成と教師の援助の変化を読み取る視点	単	2008年3月	兵庫教育大学附属幼稚園 兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要第17集 II	兵庫教育大学附属幼稚園の教育課程に示された「幼児の発達」に即応して幼児の「充実感」について示した。さらに、環境構成と教師の援助の変化を読み取る視点を「幼児が出会う環境を創造する」「幼児の姿に応じて環境を再構成する」「幼児観・教材観・指導観を幼児の姿に即応して変容させる」の3つから示した。
4. 仲間関係を深める戸外遊びにおける環境構成及び教師の援助	単	2008年11月	兵庫教育大学附属幼稚園 兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要第18集	幼稚園3・4・5歳児クラスにおける戸外遊びの実践事例を分析し、幼児の仲間関係が深まる過程における環境構成と教師の援助には、幼児が「自分の居場所や基地をもって遊ぶ」「自然を肌で感じながら遊ぶ」「五感を通して感じ、気付いて遊ぶ」「開放感を味わって遊ぶ」「なりきって遊ぶ」「全身を使ったルールのある遊び」「遊具や用具を使った集団遊び」の7つの視点にかかわるものがあることを考察した

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
5. フィンランド・スウェーデンの就学前教育の実情と就学前教育の在り方に関する考察	単	2007年12月	文部科学省 国立大学法人附属学校 文部科学省海外派遣研修報告書 44-48頁	海外派遣研修によって捉えたフィンランド・スウェーデンの就学前教育の実情から、日本の就学前教育の展望について考察した。幼児期から児童期にかけての教育において重要なことは、遊びを通して学ぶ体験的な学習の中で、五感を通して「感じる力」「表現する力」、物事を「探求する力」「考える力」「他者とコミュニケーションを図る力」「伝える力」等を培う体験や経験であることを述べた。
6. 「学びあう共同体」における幼児のアイデンティティ形成過程と教師のかかわり－関係論的分析から見えてくるもの－	単	2002年3月	『児童発達研究』第5巻 神戸大学発達科学部人間発達科学科児童発達論講座	幼稚園5歳児クラスにおける幼児の長期にわたる集団への参加過程に着目し、対象児のアイデンティティ形成を成過程及びその過程にかかわる教師の学びと変容について分析した。幼稚園という「共同体」における保育実践の中で、対象児にどのような集団への参加の軌道が創出されていくのか、その軌道の構成に共同体の構成員がどのようにかかわっていくのかを、関係論的視点から明らかにした。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 徳島大学学芸学部附属幼稚園における「生活保育」の実践化とその再考－「保育要領」（1948）刊行から「幼稚園教育要領」（1956）公布まで－ Realization and Reconsideration of “Life-Centered Child Education” at the Kindergarten Attached to the Tokushima University Faculty of Arts and Sciences—Focusing on the period between the publication of “HOIKU-YORYO” (The Guidelines of Kindergarten Education:1948) and the official announcement of “YOCHIEN-KYOIKU-YORYO” (The Essentials of Kindergarten Education:1956)－	単	2016年09月18日	国際幼児教育学会第37回大会（於：宇都宮大学） International Association of Early Childhood Education 37th Annual Convention Program, 55-56, 2016.	From the findings of the research, functions promoting growth and development specific to five-year-olds were selected and summarized in the “Ability Table of 5-Year-Olds” (1954). The Ability Table is an important index that identifies how experiences leading to various selected abilities were integrated into the natural life of a child (teaching unit). On examining the child education plan that touches upon the unit titled “YOCHIEN-NO ATARASHII O-UCHI,” which was published in 1954, it was discovered that teaching units closely linked to children’s living environment and hobbies had been selected, and that using an index referred to as the Ability Table, experiential content desirable for children’s learning at the kindergarten level was selected and used for developing the teaching unit.
2. 徳島大学学芸学部附属幼稚園における教育内容・教育方法の検討過程とその着眼点－「保育要領」（1948）から「幼稚園教育要領」（1956）公布までを対象に－	単	2016年07月02日	日本カリキュラム学会第27回大会（於：香川大学） 日本カリキュラム学会第27回大会発表要旨集録51 - 52頁	「保育要領」（1948）刊行から「幼稚園教育要領」（1956）公布に至る期間を対象とし、同園のカリキュラム及び保育計画にみる教育内容・教育方法の検討過程とその着眼点について、現在、鳴門教育大学附属幼稚園に所蔵されている当時の研究・実践資料を用いて分析した。自然な幼児の生活（単元）の中に、いかに種々の能力につながる経験が組み込まれているのか、それを読み取る指標として「5才児の能力表」が開発され、能力という概念に着目して、教育内容が検討された点を明らかにした。幼児を取り巻く生活環境と彼らの興味・関心が交差するところに選択された単元「幼稚園の新しいおうち」（1954）の保育計画を検討し、幼児の自己活動としての遊びが、種々の能力につながるような経験として位置づけられていく過程を明らかにした。
3. “Starting Strong III” が示唆する幼児教育カリキュラムにおける「学びの領域」の検討－新しい能力観及び「幼稚園教育要領」との比較を通して－	単	2015年7月5日	日本カリキュラム学会第26回大会（於：昭和女子大学） 日本カリキュラム学会第26回大会発表要旨集録147-148頁	OECDの調査報告書“Starting Strong III”において示唆された幼児教育カリキュラムにおける「学びの領域」と日本の「幼稚園教育要領」に示されている5領域とを比較検討した。前者は、「探究」「遊び」「子どもの相互作用」の3つの側面からカリキュラムに統合される領域が示唆され、探究の領域では身に付けていくことが難しいと捉えられた、いわゆる対人関係のスキルを獲得していく手段として、「遊び」と「子どもの相互作用」を促進する領域横断的な学習を位置づけていることを明らかにした。この点は、豊かな遊びと子どもの相互作用、協同を基盤として、各領域に掲げたねらいを達成していくことを根本に据えた「幼稚園教育要領」とは相違するものであること、さらには、前者が個人の学びをいかに育んでいくのかに焦点を当てているのに対し、後者は個と集団の育ちの関係性を重視した学びに焦点を当てていることを解明した。
4. 倉橋惣三の教育思想と実践をつつなく保育の教育観	単	2015年5月	日本保育学会第68回大会（於：椋山女学園大学） 日本保育学会第68回大会発表要旨集	倉橋惣三の保育論を真に解釈し、実践したと評される人物、岡山県師範学校附属幼稚園主任保母岡政の教育観及び明治後期から昭和初期における同附属幼稚園の実践について分析した。岡の教育観は、倉橋の提唱した「誘導保育」論の二つの側面、すなわち幼児の自発性の尊重と目的活動への誘導の両側面に

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
5. 幼児の活動における認知・情意・表現の系統性—東京女高師附属幼稚園「保姆の記録」に基づいて— A System of Cognition, Emotions, and Expressions in Children's Activities—Based on the "Records of a Kindergarten Teacher" from the Kindergarten attached to Tokyo Women's Higher Normal School—	単	2014年9月	国際幼児教育学会第35回大会（於：一般財団法人人材開発センター富士研修所） International Association of Early Childhood Education 35th Annual Convention Program, 76-77, 2014.	関する知識と理解に基づいて形成されているものであることを明らかにした。 東京女高師附属幼稚園保姆村上露子の保育記録「わたくし達の特急列車『うさぎ号』」（1932）を、幼児の活動における認知・情意・表現的側面に着目して検討した。幼児の生活に根差した汽車を「主題」とした保育、すなわち「誘導保育」には、生活の仕組みを再現する構造、社会認識を生み出す構造、幼児の汽車への強い思い入れを形成する構造があることを明らかにした。
6. 仲間との「つながり」を育む保育プロセス—ごっこ遊びの生成プロセスを通して—	単	2014年5月	日本保育学会第67回大会（於：大阪総合保育大学） 日本保育学会第67回大会発表要旨集198頁	幼稚園4歳児クラスにおける幼児のごっこ遊びの生成プロセスを分析することから、幼児が仲間とつながる要因と保育プロセスについて考察した。仲間とつながる要因として、「保育者」「イメージ」「言葉」「動き」があげられることを実践記録より分析し、特に、保育者は「動き」を伴った幼児の表現に着目し、幼児同士をつなぐ役割を担っていることを明らかにした。
7. 「誘導保育」における生活の系統化と統合化—東京女高師附属幼稚園「保姆の記録」に基づいて—	単	2014年11月	日本乳幼児教育学会第24回大会（於：広島大学） 日本乳幼児教育学会第24回大会研究発表論文集108-109頁	東京女子高等師範学校附属幼稚園保姆徳久孝子による誘導保育の記録「わたくし達の自動車」（1932）及び自由遊びの記録「五月の一週間」所収「山の組」（1932）を検討した。「誘導保育」と「自由遊び」の相互性の観点から、「誘導保育」には、「生活の系統化」及び「生活の統合化」という原理が内在していることを明らかにした。
8. 協同的な学びを育む保育プロセスⅡ—カッツの理論を援用して—	単	2013年5月	日本保育学会第66回大会（於：中村学園大学） 日本保育学会第66回大会発表要旨集190頁	先行研究で得られたデータに加え、より長期にわたって保育記録を収集し、幼児の協同的な学びの質的变化を捉えた。協同的な学びの質的变化は、共有する遊びの目的が創り出される、目的達成に向かった知識や技能を伝え合う、遊びのイメージや遊び方を共有する、課題を共有する、課題を解決するプロセス変化として捉えられることを明らかにした。
9. 保育の質の向上—「風通しを良くする」観点から—保育現場のクリティカル・シンキング（批判的思考）—	共	2012年5月	日本保育学会第65回大会自主シンポジウム（於：東京家政大学） 日本保育学会第65回大会発表要旨集140頁	実践現場において、保育の質の向上を図るには、研修や保育評価の場を園の内部に留めるのではなく、何らかの方法で外部との交流をもつことの重要性について提案した。教師間で共有できる「評価の規準」として、後掲の「チェック・システム1・2・3」をの活用し、子どもの育ちや課題、それらに応じた保育構築について考え合う研修の重要性について発表した。 共同研究者：埋橋玲子、小尾麻希子、武藤朱美、山本真理子
10. 保育者の職能向上に繋がる研修Ⅰ—実践知の可視化を求めて—	共	2012年5月	日本保育学会第65回大会（於：東京家政大学） 日本保育学会第65回大会発表要旨集752頁	保育者の職能向上に繋がる自主研修会を求め、自主研究会で実践を語り合うこと及びデュエイの教育理論を援用しなら考察することを試みた。筆者は、デュエイの述べる「子どもの中にある衝動」に着目し、衝動的表現を意図的表現に高めていく保育の試みについて自主研修会で語り、研修を進めた経緯について発表した。 共同研究者：多田琴子、小尾麻希子、小林みどり、坂根早織、大西雅裕
11. 子どもの育ちがみえる保育評価の試みⅢ—ごっこ遊びへの参画スタイルの変容に着目して—	共	2012年5月	日本保育学会第65回大会（於：東京家政大学） 日本保育学会第65回大会発表要旨集184頁	先行研究で用いた「子どものごっこ遊びへの参画スタイルに関するチェック・システム」「教師の関わりに関するチェック・システム」に加え、幼児の姿を12の視点から分析した「集団の育ちに関するチェック・システム」を開発した。その結果、これら3つのチェック・システムを活用することにより、「子どもの遊びを見る視点の明確化—保育を構築する視点の明確化—集団の育ちによって転換していく保育のねらい」というサイクルの中で教師の具体的な指導計画作成及び働き掛けが生み出されることを明らかにした。 共同研究者：小尾麻希子、埋橋玲子
12. 協同的な学びを育む保育プロセスに関する考察—カッツの理論を援用した保育記録の分析を通して—	単	2012年12月	日本乳幼児教育学会第22回大会（於：武庫川女子大学） 日本乳幼児教育学会第22回大会研究発表論文集204-205頁	幼稚園5歳児クラスの幼児の遊びに着目し、遊びの中で捉えられた幼児の学びをカッツの示す4つの学びの範疇「知識」「技能」「感情」「性向」から分析し、それらの学びがどのような幼児の協同する姿、協同的な学びと繋がっていくのか、また、教師の環境構成、援助とどのように繋がっているのかを探り、協同的な学びを育む保育プロセスについて考察した。協同的な学びを育む保育プロセスには、「感情」に下支えされた「知識」「技能」の習得、「性向」の高まり等、幼児の学びの様相に応じた教師の働き掛けが重要であること、また、幼児が他者の学びについて知ったり、関係をつくったりする体験の場が重要であることを明らかにした。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
13. 子どもの育ちがみえる保育評価の 試みⅡ—ごっこ遊びへの参画ス タイルの変容に着目して—	共	2011年5月	日本保育学会第64回大 会（於：玉川大学） 日本保育学会第64回大 会発表要旨集13頁	先行研究で用いた「子どものごっこ遊びへの参画ス タイルに関するチェック・システム」に加え、教師 の関わりを37の視点から分析した「教師の関わり に関するチェック・システム」を開発した。これら2つ のチェック・システムを活用することにより、保育 の方向性や意図が整理され、子どもの育ちに応じた 教師の関わりについて見直す視点が得られたこと に言及した。 共同研究者：小尾麻希子、埋橋玲子
14. 協同的な学びを育む保育の試みⅠ —5歳児の遊びを通して—	共	2011年12月	日本乳幼児教育学会第2 1回大会（於：東京成徳 大学） 日本乳幼児教育学会第2 1回大会研究発表論文集 144-145頁	幼稚園5歳児の遊びを観察し、実践記録を分析し、協 同的な学びを育む保育プロセスについて「幼児同士 で遊びを創り出すプロセス」「環境が創造されるプ ロセス」「教師の働き掛けが行われるプロセス」の3 点から考察した。その結果、幼児の姿、教師の環境 構成、援助は「遊びが始まる時」「遊びが展開して いく時」「遊びが変化していく時」「変化した遊び を継続していく時」といった4つのプロセスに応じて変 化していることを見出し、幼児の遊びの中の学びに 応じて、保育のねらい、環境構成、援助を転換して いく教師の専門的な役割について言及した。 共同研究者：小尾麻希子、多田琴子
15. 園内研修または自己評価のオリジ ナリティを求めて	共	2011年12月	日本乳幼児教育学会第2 1回大会ラウンド・テー ブル（於：東京成徳大 学） 日本乳幼児教育学会第2 1回大会研究発表論文集 40-41頁	保育の質の向上に繋がるオリジナルな園内研修や自 己評価について協議した。筆者は、保育現場におい て継続しやすい保育評価として、前掲の「チェック ・システム1・2・3」を活用した自園の取組を紹介し た。 共同発表者：埋橋玲子、小尾麻希子、安達譲、島村 和宏、丸山和彦
16. 子どもの育ちがみえる保育評価の 試み—ごっこ遊びへの参画ス タイルの変容に着目して—	共	2010年5月	日本保育学会第63回大 会（於：松山東雲女子 大学） 日本保育学会第63回大 会発表要旨集64頁	幼児のごっこ遊びへの参画スタイルに着目し、保育 実践を保育の「構造評価」「プロセス評価」「アウ トカム評価」の3つの保育評価方法を用いて分析し ている。プロセス評価で用いる「子どものごっこ遊 びへの参画スタイルに関するチェック・システム」を 創出し、幼児の姿を16の視点から分析した。オリジ ナルのチェック・システムを活用して評価すること により、子どもの育つ方向が見えやすくなり、子ど も一人一人に必要な教師の関わりについて考える視 点が構築されていくことについて考察している。 共同研究者：小尾麻希子、埋橋玲子
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 農繁期託児所と子育て・家庭教育 との関係をめぐる歴史的考察	単	2016年07月	平成27年度公益財団法人 前川財団家庭教育研究 助成報告書	昭和2年に「兵庫県農繁期託児所奨励規程」を制定・公 布した兵庫県の事例を取り上げ、農繁期託児所と子 育て・家庭教育との関係を明らかにすることを目的 とした。特に、農村産業組合が運営する農繁期託 児所の事例に着目した。子育てを地域社会の共同の ものとして考えた点に、また、労働を通じた女性の自 立と子育ての関連性を提唱した点において、女性の 子育て観に大きな影響を与えたと結論づけた。
2. 日本の近代化における家庭・幼児 教育思想に関する研究	共	2015年7月	平成26年度公益財団法人 前川財団家庭教育研究 助成報告書	安井てつ、E.P.Huges、倉橋惣三の三者の家庭・幼児 に関する教育思想を研究の俎上にのせ、明治初期の 近代化を支えた相関的・複合的な歴史事象、すなわ ち、家庭の育成と家庭・幼児教育の出現に光を当て た研究。女性固有の役割が家庭・幼児教育の文脈に おいて位置づくプロセスを明らかにした。
3. 協同的な学びを育む保育の創造— 伝え合いを支える教師の援助と環 境構成—	共	2013年3月	日本生活科・総合的学 習教育学会 日本生活科・総合的学 習教育学会第22回全国 大会紀要89-115頁	幼児の協同的な学びと育ち、協同的な学びを育む教 師の援助及び環境構成、小学校教育との接続を考 える視点について、実践事例を基に考察した。協同 的な学びを育む教師の援助及び環境構成の重点を、 幼児同士の「試行錯誤する」「考え合う」「言葉で伝 え合う」プロセスを創り出すこととし、また、幼児 の姿を捉える6つの視点「安心度」「夢中度」「人 のかかわり」「イメージの共有」「他者と共に遊び の目的創造」「他者と共に遊びの目的追求」を設定 し、幼児の遊びの中のエピソードを記録、評価する 自己評価法を用いて分析した。 日本生活科・総合的学習教育学会指定研究（明石市 立大観幼稚園） （全19頁、第1章研究の概要、第2章研究の目的、第3 章研究の仮説、第4章研究の方法pp. 1-5、第5章研究 の内容2節実践事例2項5歳児の実践事例pp. 8-13、第6 章研究のまとめpp. 14-19執筆）
4. 幼児の生活を充実させる保育環境	共	2008年11月	兵庫教育大学附属幼稚	「幼児の生活を充実させる保育環境を考える—仲間

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
を考えるー仲間関係を深める戸外遊 びに焦点を当ててー			園 兵庫教育大学附属幼稚園 研究紀要第18集	関係を深める戸外遊びに焦点を当ててーをテーマとし、幼児の個の充実、仲間関係の深まり、その環境構成や教師の援助の在り方について実践事例を示しながら考察した。研究の概要、3歳児の実践事例、研究の成果と課題を執筆し、各学年の幼児の発達に応じた環境構成及び教師の援助の在り方について示した。 共著者：名須川知子、高橋一枝、谷石宏子、岸本美保子、小林みどり、白石肇 (全55頁 第1章研究の概要pp. 1-8、第2章実践事例pp. 8-16、第3章研究の成果と課題pp. 48-52執筆)
5. 3歳児保育指導案	単	2007年3月	兵庫教育大学教育文化資料館	平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園において作成した3児学級指導案2編を兵庫教育大学教育文化資料館及びアーカイブにて公開している。
6. 平成18年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」	共	2007年3月	兵庫教育大学附属幼稚園	平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著している。3歳児の年間指導計画、月別指導計画(4月～3月)、週指導計画例各1編を執筆した。 共著者：名須川知子、高橋一枝、谷石宏子、岸本美保子、小林みどり、白石肇 (全52頁、第1章9節年間指導計画(3歳児) pp. 6-7、第2章指導計画第1節月別指導計画(3歳児) pp. 12-22、2節週指導計画(3歳児) p. 44執筆)
7. 親育てプログラムとその評価システムの開発による幼稚園の教育課程及び地域子育てに関する開発研究	共	2007年3月	文部科学省 兵庫教育大学附属幼稚園 文部科学省研究開発実施報告書	文部科学省より研究開発の指定を受け、幼稚園における子育て支援の在り方に関する研究開発を行う。筆者は、「親育てプログラム」の開発・試行について研究を推進し、保護者の保育参加、子育て講演会、子育て相談等を通して、いかに保護者の子育てについての意識が変容したか、今後の研究開発について、文部科学省へ報告書を提出した。 共同研究者：名須川知子、高橋一枝、谷石宏子、岸本美保子、小林みどり、白石肇、宮脇由美、その他、兵庫教育大学教員5名、子育て支援プロジェクト研究会より4名 (全81頁、第2章研究開発の内容第1節「親育てプログラム」の開発・試行、第2節研究の結果、pp. 14-40、第3章今後の研究開発の課題p. 41執筆)
8. 幼小連携教育ー豊かに「かかわり」「気付き」「表現」する子どもー	共	2006年3月	兵庫教育大学附属幼稚園 研究紀要第17集 I	兵庫教育大学附属幼稚園と同附属小学校間で研究、実践を行った幼小連携教育について述べた。めざす子ども像を、豊かに「かかわり」「気付き」「表現する」子どもとし、幼小交流実践における子どもの学びについて実践事例を通して示し、幼小連携教育の展望及び幼小連携教育を視野に入れた附属幼稚園のカリキュラムの再編成について考察した。5歳児と小学校1年生の交流実践における幼児の学びの過程について実践事例を通して示し、また、幼小連携教育の展望を、教師の連携、交流実践、カリキュラムの接続の3つの点から述べた。 共著者：名須川知子、高橋一枝、谷石宏子、上月康代、岸本美保子、山田有紀子 (全83頁、I. 幼小連携教育 第2章研究の成果及び今後の展望 第3節5歳児と1年生との交流実践pp. 13-19、第4節交流実践の展望pp. 19-21執筆)
9. 平成17年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」	共	2006年3月	兵庫教育大学附属幼稚園	平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児か5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著している。4歳児の年間指導計画、月別指導計画(4月～3月)、週指導計画例1編を執筆した。 共著者：名須川知子、高橋一枝、谷石宏子、上月康代、岸本美保子、山田有紀子、白石肇 (全52頁、第1章9節年間指導計画(4歳児) pp. 8-9、第2章指導計画第1節月別指導計画(4歳児) pp. 23-33、2節週指導計画(4歳児) p. 45執筆)
10. 一人一人の幼児が友達と共に「充実感」を味わって遊ぶための保育環境を考えるー「うれしのタイム」の環境構成及び教師の援助の変化を読み取ることを通してー	共	2006年3月	兵庫教育大学附属幼稚園 兵庫教育大学附属幼稚園 研究紀要第17集 II	各学年の幼児が味わう充実感とは何か、あるいは、充実感に繋がる過程とはどのようなものかを実践事例を示しながら考察した。「充実感を捉える視点」は、本園の教育課程に示された幼児の発達の姿に即応してまとめ直し、一覧表に示した。また、「充実感に繋がる過程」に関わる教師の役割を、幼児が「出会う」環境をいかに創造するか、環境を再構成するか、教師の幼児観、教材観、指導感を幼児の姿に即応しながら変容させていくかといった3つの視点から考察している。研究の概要、4歳児の実践事例、研究のまとめ、研究の成果と課題、「充実感を捉える視点」の一覧表に示した。 共著者：名須川知子、高橋一枝、谷石宏子、上月康代、岸本美保子、山田有紀子 (全83頁 II. 「うれしのタイム」(好きな遊びの研究実践 第1章研究の概要pp. 32-35、第2章2節4歳児の保育実践より pp. 41-55、第3章研究のまとめpp.

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
11. 研究報告書・指導案集「幼児の生活を充実させる保育環境を考える－仲間関係を深める戸外遊びに焦点を当てて－」	共	2006年11月	兵庫教育大学附属幼稚園	平成17・18年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会において行われた研究経過報告及び公開保育指導案を掲載している。研究経過報告書、3歳児11月の指導計画、11月第2週指導計画及び公開保育指導案を執筆した。 共著者：名須川知子、高橋一枝、谷石宏子、岸本美保子、小林みどり、白石肇、宮脇由美 (全48頁、研究経過報告pp. 4-22、3歳児11月指導計画p. 24、3歳児もも組11月第2週指導計画p. 28、公開保育指導案pp. 29-31執筆)
12. 研究発表・公開保育「幼児の生活を充実させる保育環境を考える－仲間関係を深める戸外遊びに焦点を当てて－」	共	2006年11月	平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会 兵庫教育大学附属幼稚園	研究テーマを「幼児の生活を充実させる保育環境を考える－仲間関係を深める戸外遊びに焦点を当てて－」として進めた平成17・18年度兵庫教育大学附属幼稚園における研究・実践を公開した。3歳児の公開保育を行い、研究経過報告及び幼児の「仲間関係を深める戸外遊び」をテーマにした提案発表を行った。 共同発表者：名須川知子、高橋一枝、谷石宏子、岸本美保子、小林みどり、白石肇、宮脇由美
13. 研究報告書・指導案集『一人一人の幼児が友達と共に「充実感」を味わって遊ぶための保育環境を考える』	共	2006年1月	兵庫教育大学附属幼稚園	平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会において行われた研究経過報告及び公開保育指導案を掲載している。研究経過報告書、4歳児1月の指導計画、1月第3週指導計画、公開保育指導案を執筆した。 共著者：名須川知子、高橋一枝、谷石宏子、上月康代、岸本美保子、山田有紀子 (全42頁、研究経過報告pp. 4-16、4歳児1月指導計画p. 31、4歳児ひまわり組1月第3週指導計画p. 33、公開保育指導案pp. 34-36執筆)
14. 研究発表・公開保育『一人一人の幼児が友達と共に「充実感」を味わって遊ぶための保育環境を考える』	共	2006年1月	平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会 兵庫教育大学附属幼稚園	研究テーマを『一人一人の幼児が友達と共に「充実感」を味わって遊ぶための保育環境を考える』として進めた平成16・17年度兵庫教育大学附属幼稚園の研究、実践を公開した。4歳児の公開保育を行い、研究経過報告及び提案発表を行った。概要は、前掲の兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要第17集(Ⅱ)に記載の通りである。 共同発表者：名須川知子、高橋一枝、谷石宏子、上月康代、岸本美保子、山田有紀子
15. 平成16年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」	共	2005年3月	兵庫教育大学附属幼稚園	平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著している。5歳児の年間指導計画、月別指導計画(4月～3月)、週指導計画例1編を執筆した。 共著者：岡秀郎、高橋一枝、谷石宏子、上月康代、岸本美保子、前田真由美 (全52頁、第1章9節年間指導計画(5歳児) pp. 10-11、第2章指導計画第1節月別指導計画(5歳児) pp. 34-442 2節週指導計画(5歳児) p. 46執筆)
16. フィンランド・スウェーデンの教育の実情	共	2005年11月	文部科学省 国立大学法人附属学校 国際的な視野・識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修報告書	海外派遣研修によって学んだフィンランド・スウェーデンの就学前教育、初・中・高等教育、特別支援教育の実情及び日本における教育の展望について報告した。研修視察報告「フィンランドの学童クラブ」「フィンランドの就学前教育」、調査研究課題成果報告「フィンランド・スウェーデンの就学前教育の実情と日本における就学前教育の在り方に関する考察」を執筆した。 (全60頁 第2章研修視察報告「フィンランドの学童クラブ」p. 13、「フィンランドの就学前教育」p. 18、第3章調査研究課題成果報告「フィンランド・スウェーデンの就学前教育の実情と就学前教育の在り方に関する考察」pp. 44-48執筆)
17. 研究報告書・指導案集『幼小連携教育－豊かに「かかわり」「気付き」「表現」する子ども－』	共	2005年1月	平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会 研究報告書・指導案集	平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会において行われた研究経過報告及び公開保育指導案を掲載している。研究経過報告書、5歳児1月の指導計画、1月第3週指導計画、公開保育指導案を執筆した。 共著者：岡秀郎、高橋一枝、谷石宏子、上月康代、岸本美保子、前田真由美 (全46頁、研究経過報告pp. 4-20、5歳児1月指導計画p. 41、5歳児すみれ組1月第3週指導計画p. 43、公開保育指導案pp. 44-46執筆)
18. 研究発表・公開保育『幼小連携教育－豊かに「かかわり」「気付き」「表現」する子ども－』	共	2005年1月	平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園・小学校 研究発表会 兵庫教育大学附属幼稚園	研究テーマを『幼小連携教育－豊かに「かかわり」「気付き」「表現」する子ども－』として進めた平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園の研究、実践を公開した。5歳児の公開保育を行い、研究経過報告及び提案発表を行った。概要は、前掲の兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要第17集(Ⅰ)に記載の通りである。 共同発表者：岡秀郎、高橋一枝、谷石宏子、上月康代、岸本美保子、前田真由美

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
19. 研究発表「感じたこと、考えたことを音や動きで表現したり、自由にかいたりつくったりするようになるための物的・空間的環境の構成」	単	2004年11月	文部科学省 文部科学省「幼稚園教育課程協議会」中央協議会研究発表	協議主題「感じたこと、考えたことを音や動きで表現したり、自由にかいたりつくったりするようになるためには、どのような物的・空間的環境の構成が必要か」について、幼小連携教育で進めている実践事例「1年生と一緒にチョークで道に絵をかいたり、かいたものを使って遊んだりする」を基に発表した。環境構成の重点として、「かく場所の魅力」をあげ、さらに、開放感を味わってかく、かいたものを使って遊ぶ楽しさ、かく場所に適した材料、人とのかかわりによって豊かになるイメージ、人との交流によって生み出される心の揺れ動きが起こる教師の援助の重要性について述べた。
20. 研究報告書「感じたこと、考えたことを音や動きで表現したり、自由にかいたりつくったりするようになるための物的・空間的環境の構成」	単	2004年11月	平成16年度文部科学省「幼稚園教育課程協議会」中央協議会「教育課程協議会研究成果の要旨集」	平成16年度文部科学省「幼稚園教育課程協議会」中央協議会における発表の要旨を掲載している。発表要旨は、後掲の研究発表に記載したものを参照。(pp. 124-125執筆)
6. 研究費の取得状況				
1. 農繁期託児所と子育て・家庭教育との関係をめぐる歴史的考察	単	2015年9月～2016年8月	公益財団法人前川財団	平成27年度公益財団法人前川財団家庭教育研究助成
2. 日本の近代化における家庭・幼児教育思想に関する研究	共	2014年9月～2015年8月	公益財団法人前川財団	平成26年度公益財団法人前川財団家庭教育研究助成

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2016年06月～現在	日本子育て学会
2. 2016年01月～現在	幼児教育史学会
3. 2015年01月～現在	日本カリキュラム学会
4. 2014年04月～現在	日本子ども社会学会
5. 2014年04月～現在	国際幼児教育学会
6. 2010年04月～現在	日本乳幼児教育学会
7. 2000年04月～現在	日本保育学会